

没落銀河日本国召喚

軟体生物集合体

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

西暦29xx年、銀河の有機知的生命体は死滅した。

恒星は超新星爆発を起こし、ガイア惑星は死の星へと化し

殺戮機械知性生命体と貪食する群れが銀河中に蔓延した！

しかし！日本人は生き延びていた！

第1話

目次

1

第1話

天の川銀河に人類が進出してから長い時が経った。

22世紀の人類の銀河進出はまさに宇宙開拓の黄金時代であった。

次々と開発される新技術、地球外文明とのコンタクト、もたらされる発見の時代。

だがそれは続く暗黒時代を前にした一時の瞬きに過ぎなかったのか。

銀河の危機、黙示録、最後の審判、神々の黄昏。

今となつては呼び名は様々だが。

人類のみならず銀河の有機生命体に襲い掛かったのはまさに悪夢のごとき出来事だった。

外銀河から襲来した殲滅機械知性生命

異次元からの侵略者、殺戮無機生命体

それらに対しての古代の防衛機構兵器群の暴走と無差別攻撃。

銀河に生きる有機生命体はそれらに対し

それまでの領土、資源、イデオロギー問題を棚上げし

相互防衛条約からなる銀河防衛同盟を結成しこれに対抗した。

だが我々は敗れ去った。

地球連邦は銀河の有機生命体の領地が寸断され戦力も撃破される中で緊急避難プログラムを実施する。

最終指令 Exodus

銀河のワープ航行が極めて困難な辺境惑星に地球連邦の市民・軍人を分散、退避させる計画。多量のデブリゆえにワープ航路が極めて探知されにくく、また攻めるに難しくするに易い宇宙の要塞惑星が選ばれた。

人類は自らを鎖国することで殺戮の嵐が吹き荒れる銀河で生き延びようとしたのだ。

自らの歴史、文明、技術の火を消さないために・・・

Mクラスの惑星、日本もそんな惑星の一つであった。

地球クラスの惑星に小さな島が一つ・・・

これは人工の島ではない、人工の惑星なのだ。

元々は海ばかりの海洋惑星に陸地を形成したのが日本民族だった。

生活こそ陸上だがエネルギー放射が行われる工業活動を海中に限定することによって殺戮機械などに察知される可能性を極限まで抑えるというのがこの時代の日本人の選択肢だった。

無論、これが唯一の回答だとは思ってはいない。

地球人の中にはその人口を活かしての人民戦争を仕掛けた民族もいた。優れた兵器技術と戦術で戦鬪に訴えようとした民族もいた。

敵が高度なエネルギー放射を探知することに気づき文明を放棄した民族もいた。

他の知的生命体の情報売ることで命を永らえようとした民族もいた。

今、彼らと連絡を取る手段は最早存在しない、亜空間通信信号を発するほど無謀ではない。

銀河の他の有機生命体とコンタクトがとれなくなつて数十年。

それでも今日も日本国は持ちこたえている。

かつて人類は天の川銀河全域に進出していた、今確認できるのは銀河の片隅の小さな惑星の小さな島の上だけだ。

そんな彼らとは全く異次元の存在がある惑星。

日本国はそんな惑星に突如として転移してしまう。

日本国が転移してから数か月がたった。

日本国はクワトイネ公国と、クイラ王国両方に同時に接触し、双方と国交を結んだ。恐ろしく慎重に、距離が近いためにやむを得ず。

まず転移してから日本国が最初に行ったことは軌道上に隕石にカモフラージュされた深宇宙探査衛星に近辺に敵対的殺戮機械、あるいは異星人の存在を調査すること

あった。

そのもたらされた調査結果に首相以下閣僚はひとまず安心した。

半径5000光年の至近距離にとりあえずは活発な敵性体の活動は見られなかった。

この時代、5000光年はもはや至近距離といってもいい。

ついで防衛隊に命じられたのは自分たちが転移した惑星における敵対的有機あるいは無機生命体の調査である。

もしも殺戮機械を発見したならばいかなる手段を取ってでも亜空間通信で生命体警報を発せられる前に消滅させよという指令が下った。

指令のもと、宇宙艦隊のドレッドノート級護衛艦以下30隻が惑星上を隅々までスキャンする。

光子魚雷、タキオン兵器が惑星に向けられる。

本来なら友人惑星の大气圏内に使用されることなど絶対にあってはならないが

この時代の日本人はテラワットレーザー砲や手ごろで低出力な純粹核融合ミサイルのような原始的な武器を撤廃してしまっていた。

結果として惑星攻撃に戦艦を持ち込むという笑えない冗談になってしまった。

結果として軌道上の艦隊が低出力での地上の捜査をした結果はすぐに首相府に送信された。

数百年ぶりの異星人とのコンタクト、日本人のコンタクトは慎重だった。

異星人は完全には信用するな、数百兆の命が失われた黙示録を生き延びた人間にとって用心とは酸素と同じ程度には重要だ。